

内容		明治前期の村と衛生・病気—京都府乙訓郡 上植野村を対象に(高久嶺之介)	201
I 中古・近世の医療と社会		《コラム》W.B. イェイツ・シュタイナッハ 手術・長寿法(浅井雅志)	228
平安中後期における貴族と医師(増渕徹)	3	錯乱と祟りの間—森鷗外『蛇』の問題圏 (野村幸一郎)	242
鎌倉幕府の医師(細川涼一)	25	母乳が政治性を帯びるとき—世紀転換期 ドイツにおける乳児保護の実態と言説 (南直人)	259
『本草綱目』に見る中国医療の到達点 (島居一康)	45	《コラム》日本の看護基礎教育における死の 教育についての概観(奥野茂代)	284
《コラム》敦煌石窟壁画からみた民衆の喪葬 礼儀—「老人入墓図」を取り上げて (王衛明)	72	(松村 紀明)	
室町・戦国期の山科家の医療と「家業」の 形成—「三位法眼家傳秘方」をめぐる (米澤洋子)	82	[思文閣出版, 〒605-0089 京都市東山区元町 355, TEL. 075(751)1781, 2013年2月, A5判, 304頁, 2,800円+税]	
曲直瀬玄朔とその患者たち(田端泰子)	130		
《コラム》モンゴル時代の文化交流 —医術のケース(小野浩)	170		
II 近・現代の医療と社会			
幕末京都における医家と医療(有坂道子)	179		

## 片桐一男 著

## 『蘭学家老 鷹見泉石の来翰を読む —蘭学篇—』

本書は古河藩家老・鷹見泉石宛に送られた書翰 の中で蘭学を中心とした学術に関するものの解説 資料本である。老中・土井利位を支えた鷹見泉石 は、譜代大名の土井家の重臣として当時の政治、 文化、外交の中核にある役人・商人・学者らとと 広く交流を持っており、泉石宛の来翰の全貌が明 らかになることは極めて有益といえ、本書はその 中心となるべきものであろう。		4 天文方の書翰	71
		5 長崎役人の書翰	81
		6 蘭学者の書翰	91
		7 地理学者等の書翰	153
		8 幕府役人等の書翰	157
		9 眼科医の書翰	165
		II 鷹見泉石の書翰控	181
		III 附録	191
		IV 鷹見泉石の来翰と控を読む	207
内容		(松村 紀明)	
I 鷹見泉石の来翰	20	[岩波ブックセンター, 〒101-0051 東京都千代 田区神田神保町2-3, TEL. 03(3263)6601, 2013 年5月, A4判, 232頁, 7,000円+税]	
1 江戸商人の書翰	22		
2 阿蘭陀通詞の書翰	38		
3 唐通事の書翰	62		